

# ● 基本的なこと

## ① 聴力について

聴力は **dB (デシベル)** という単位を使って表します。これは音の強さの単位でもあります。

dB を使って志磨村の聴力を表すと…

右耳：115.0dB

左耳：91.3dB

となります。

これがどれくらいの聞こえなのか？

右の表をご覧ください。

志磨村の右耳の聴力は115dBです。

これは表を参考にすると、

高架下の大きな音でも聞こえないというように捉えることができます。

つまり、聴力は **dB** の値が大きくなるほど、

聞こえにくさが増していくということなのです。

dB	めやす
0dB	聞こえる人の聴力の限界
40dB	ささやき声
60dB	普通の話し声
90dB	耳元の大きな声
110dB	電車が走る高架下の音
130dB	飛行機のエンジン音

## ② 補聴器について

● 補聴器は**左耳**にのみ装着しています。

● 補聴器は耳に入る音を大きくしてくれますが、

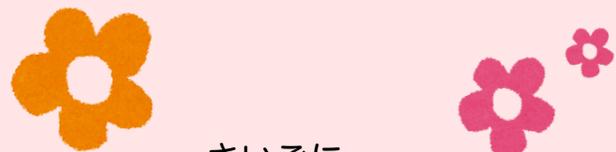
ことばをはっきり聞かせる

ことはできません。 →

● 志磨村の場合、補聴器をすると、

普通の話し声程度の大きさの音

が聞こえるようになります。補聴器を外すとほとんど聞こえません。



さいごに…

このリーフレットを読まれて、**分かりにくい**と感じたこと、**疑問**に思ったこと、**もっと詳しく知りたい**ことなどありましたら、遠慮なくお尋ねください。



皆さんと

**より楽しく、確実な**

**コミュニケーション**

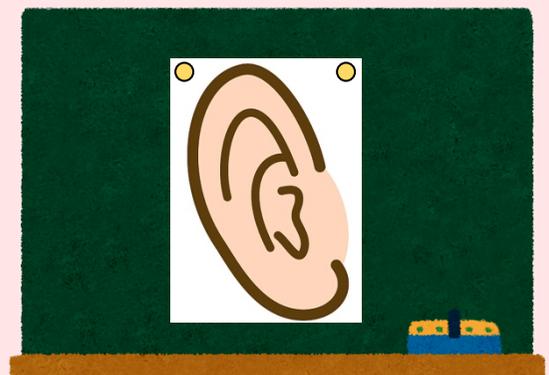
をとっていくことができるようになれたらと思っております。

どうぞ、今後とも

よろしくお願い申し上げます。



志磨村 早紀の  
聞こえについて



## ● 志磨村の日常生活での コミュニケーション

### ① ことばを話すことについて

- 幼少期は難聴が軽かったこともあり、**ことばを話すことは可能**です。
- ただ、難聴の影響によって、発した音が歪んだり間違ったりすることもあります。
- **自分の発音を自分の耳ではフィードバックできない**ので、聞き取れなかった際や、誤りにお気づきの際は遠慮なくご指摘ください。

### ② ことばを聴くことについて

- **補聴器に入る音声**と、相手の方の**口の動きを頼りに**、話の内容を理解しています。  
★感覚的に、音声8割、視覚情報2割でコミュニケーションをとっています。
- **静かな環境で1対1の対面での会話**であれば上記の方法で会話の理解はほぼ可能です。
- しかし、音を聞いたり口の動きを見たりすることは**集中力が必要なため、文字や手話など視覚的な補助手段**があると、より楽に情報を受け取ることができます。



ことばを聞き取りにくい、理解しにくい状況としては、次のような例が挙げられます

- ★**マスク**をしていたり、**下を向いて話される**など口の動きが見えにくい時  
→**口元が見えるように**話していただくと助かります。マスクを外せない時は、はっきり目にお話しいただくか、筆談をお願いします。
- ★（補聴器をつけていない）**右耳側**からの音や声はとっても聞こえにくいです。  
→横に並んで話す際は、私の**左側（補聴器がついている側）**に立ってくださると、お話ししやすくなります。
- ★**飲食店など騒がしい場所**で会話する時  
→いつもより**やや大きめの声**ではっきりとお話しただけると助かります。お店はできる限り静かなところだと嬉しいです！食べる・飲む、大好きなのでお誘いください！
- ★**複数人での会話**など話し手が特定しにくい時  
→なるべく**発言は1人ずつ**、またお話される前に挙手などで**私の注意を引いて**話していただくと助かります。
- ★**後方からの呼びかけ**、周辺での会話のやり取りなど、私の**視界や注意から外れている**時  
→**肩をたたく、視界に入る**など、私の注意を引いてくださると、気づきやすくなります。

## ● お願いしたい配慮

- ◆電話ができないため、やり取りは**メール**でお願いします。メールのレスポンスは早いです！
- ◆少人数（～6名）の打ち合わせであれば、特に支援は不要です。口元を見せてははっきりお話しいただければ理解できます。最初に、**自分が聞きやすい座席を選ばせていただけますと幸いです。**
- ◆大人数での打ち合わせ、会議、講習会等の場合は、支援が必要になります。具体的な選択肢としては…
  - ・パソコン通訳  
支援者が音声情報をPCでタイピングしながら文字に変換
  - ・手話通訳  
リアルタイムで伝わるので、ディスカッションなどに最適
  - ・音声認識システム  
誤認識もありますが、学習させていくと有効活用できます。
  - ・補聴システム  
専用のマイクを使って、補聴器にダイレクトに音声を飛ばします

規模や状況に合わせて、選択できればと思いますので、ご相談させてください。